

曳網釣試験

担当技手 上場 清吉

I 調査概要

1. 調査期間
 - 1963年5月6日～7日……………第一次
 - 1963年5月28日～6月1日……………第二次
2. 調査海域
 - 佐名郡島西方ニューガマ、久福島南漁場……………第一次
 - 佐名郡曾根ニューガマ下曾根……………第二次
3. 使用船舶及乗組員
 - かもの丸(5.75t-16t)比嘉船長外2人
4. 漁具
 - 曳網3組
 - これに掬網筒及び漁帆板、生餌を装填して使用した。
5. 経 道
 - 第一次
 - 1963年5月6日～7日 佐名郡島西方「ニューガマ類」試験実施地
 - 5月8日～7日 久福島南方漁場で試験実施
 - 5月9日 白港母港
 - 第二次
 - 1963年5月28日 泊船出港
 - 5月29日～5月31日 佐名郡曾根ニューガマ類下曾根で試験実施
 - 6月1日 白港母港

II 調査試験結果

1. 漁獲一覧表

日 付	漁 場	漁 獲 時 間	所 要 時 間	漁 具 数	漁 具 番 号	魚 種 別 魚 獲 高						備 考		
						マダロ	カンオ	ソリンゴ	オゼブリ	サワラ	シイラ		合 計	
5月6日	佐名郡島西方 ニューガマ類	6-30 17-00	10-50	5	I			2			2	8	2番漁具には漁帆板を取付けた	
					II	4		2			6			
					III									
5月7日	同 上	6-00 18-30	12-50	5	I	1					1	6	同 上	
					II	1		2			3			
					III	2					2			
5月8日	久福島南漁場	5-30 19-15	13-45	5	I			3	2		5	15	2番漁具にはニ文釣を取り付け生餌ヤンマを試餌して曳いた。	
					II					1	2			3
					III			7						7

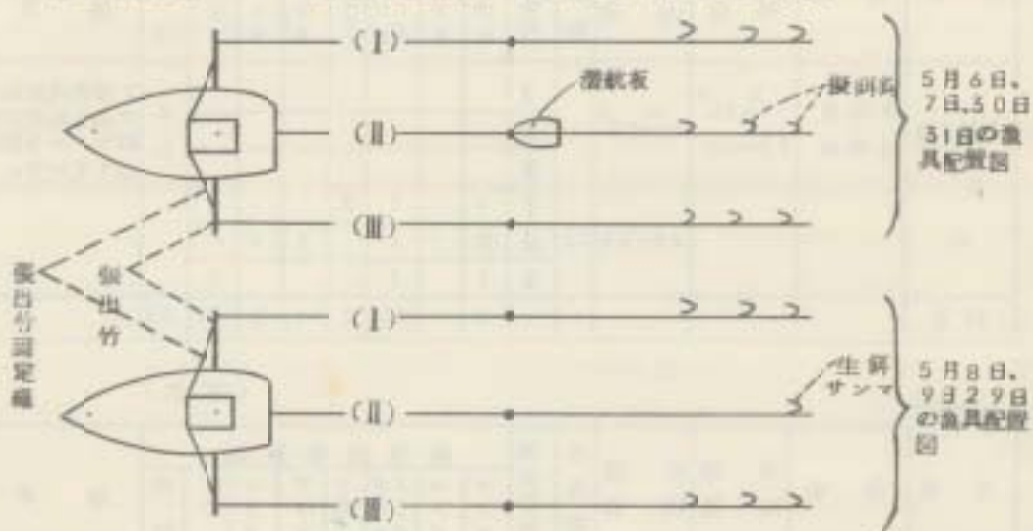
月 日	漁 場	操 業 時 間	所 要 時 間	漁 具 数	漁 具 番 号	魚 種 別 魚 獲 高						備 考
						マ ア ロ	カ ン オ	ソ ン オ	イ ナ ア リ	サ ワ ラ	シ ラ	
5月9日	久 嶋 島 南 漁 場	5-50 ³⁰ 12-00	6-50 ¹¹	5	I							2番漁具にはニ ×釣を取付け生 餌サシマを装 して使いた。
					II							
					III							
計			43-15	12	I	1	5	2			8	
					II	5	4		1	2	12	
					III	2	7				9	
合計						8	16	2	1	2	29	29

(第二次)

月 日	漁 場	操 業 時 間	所 要 時 間	漁 具 数	漁 具 番 号	魚 種 別 魚 獲 高						備 考
						マ ア ロ	カ ン オ	ソ ン オ	イ ナ ア リ	サ ワ ラ	シ ラ	
5月29日	ソノガマ瀬 彦名喜曾根	6-00 11-00	5-00	5	I			1				2番漁具にはニ ×釣を取付け生 餌サシマを装 して使いた。
					II							
					III							
5月30日	彦名喜曾根	14-00 17-30	3-50	5	I			2		2	4	6
					II							
					III		1		1	2		
5月30日	彦名喜曾根	7-00 10-00	11-00	3	I	5	2	6			11	2番漁具には活 靴板を取付けた
					II	25		17			42	
					III	5		6			11	
5月31日	同 上	6-50 18-50	11-40	3	I		1				1	同 上
					II	5		5			8	
					III			1			1	
計					I	3	3	9		2	17	
					II	30		20			50	
					III	5		8		1	14	
合計						38	5	37		5	81	81

漁具配置図

漁具番号は右枝を1、中央を2、左枝を3とした。



2. 漁況

水温の上昇と共にカブオ、マダロ類の回遊は多くなり、海鳥も多く見られるようになり、漁況は次第に活況に変わりつつある。

向普通曳と潜航板付と生餌曳を比較した場合、釣獲率(釣鈎100に対する釣獲尾数)で示すと普通曳で6.85尾、潜航板付で2.95尾、生餌曳で10.0尾であった。

目 考 察

潜航板付の成績が目立ったのは、魚の遊泳層が深かったことを示すものである。

このことは水温、天候、水色、透視度等によるものと考えられるが、今後、潜航板の深度と釣獲率の変化を調査し、多量水深を把握すれば、カブオ、マダロの遊泳層が分り、生産を増大することが出来るものと思ふ。